長引く症状・・それって結核かも？

～高齢者の体に眠る結核菌～

結核は、高齢者に多い！

・鳥取県中部管内では、毎年５人前後の方が結核を発病しており、

８割以上が８０歳以上の高齢者です。

結核とは？

○空気感染し、感染者のうち発病するのは１～２割。

○高齢者は、若い頃に感染し体内に結核菌をもっている方も多く、免疫低下によって発病するリスクが高い。

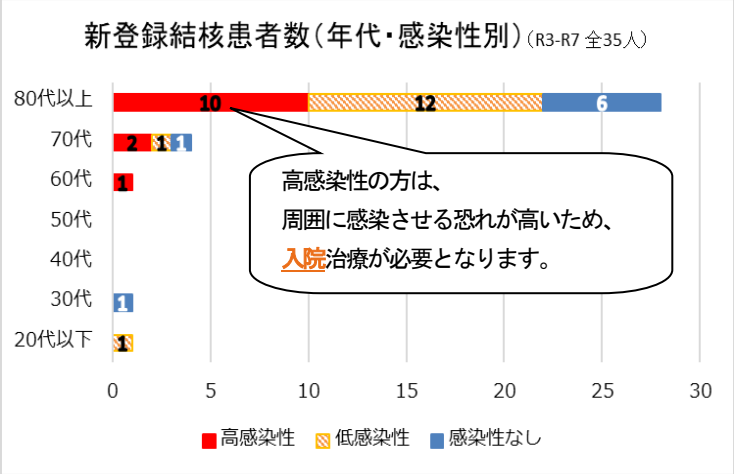
感染と発病は違う！

○診断方法は、
胸部Ｘ（エックス）線検査と、菌検査（喀痰等）。

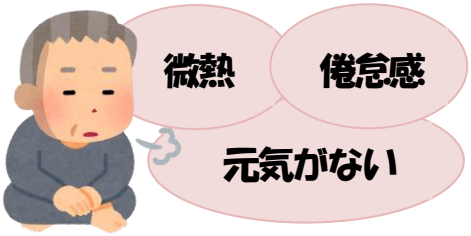
○早期発見できれば、周囲への感染を予防でき、
外来治療が可能。

○服薬治療で治る。

管内の患者発見状況(令和３～７年:35名)



早期発見が重要！



①このような症状が２週間以上続いたら、
医療機関を受診し、胸部Ｘ（エックス）線検査を！

②年１回は必ず定期健診（胸部Ｘ線検査）を受けましょう！

鳥取県中部総合事務所倉吉保健所作成（R8.5月）

事例紹介

事例①

受診の遅れ

◆独居。
◆診断半月前より、食欲低下、歩行困難があったが、我慢し受診されず。
◆診断１週間前に救急搬送され入院→肺結核の診断。

事例②

診断の遅れ

◆グループホーム入所。
◆微熱と軽い咳で受診。気管支炎の診断となる。
抗生剤で症状改善。（それ以降、微熱が時々、咳はなし。）
◆１か月後、別疾患で他院に入院。
→胸部Ｘ線検査から結核を疑われ、菌検査により、肺結核の診断。

いずれも他者へ感染の恐れがあり、入院治療となった事例

高齢者は、呼吸器症状が乏しいケースも多い。日々の健康観察・有症状時の早期受診が大切。

胸部Ｘ線検査で陰影があった場合は、結核も疑い、菌検査をしてもらうことが大切。

事例③

診断の遅れ

◆グループホーム入所。
◆診断４か月前に肺炎で入院。→抗生剤で症状改善し退院。
（この時点で、結核診断時と同様の肺陰影あり。菌検査なし。）
◆診断半月前、発熱・食事がとれないため再入院。
→肺結核と診断され、２日後に結核死亡。

発見が遅れた場合、死亡する事例も。

事例④

◆住民健診（胸部Ｘ線検査）で要精密となり、医療機関受診。
→肺結核の診断。症状なし。
◆菌検査の結果、他者へ感染させる可能性は低いため、外来治療。

早期発見！

症状がなくても、結核の診断となる場合もある。定期的な健診が大切。

◆施設職員の方が、職場健診で要精密となったが受診されず、
発病の発見が遅れ、利用者さんへ感染が拡大した事例も。

◎健診等で、要精密となった場合は、必ず早期受診しましょう！！

※ご要望に応じて、職場研修会へ伺わせていただきます。お気軽にご相談ください！

【お問い合わせ】中部総合事務所　倉吉保健所　医薬・感染症対策課　難病・感染症対策担当
電話　０８５８－２３－３１４５　　ＦＡＸ０８５８－２３－４８０３

鳥取県中部総合事務所倉吉保健所作成（R8.5 月）